

大明小学校 校長室から

令和元年5月21日

No. 9

文責 校長 飯久保一男

児童総会から

17日（金）に児童総会が行われ、3～6年生の192人が参加する中、児童会スローガンをはじめ、活動の柱が決定されました。児童総会を始めるにあたり、児童会長のあいさつに続いて、校長からの話の機会をもらいましたので、次のような話をしました。概要です。

○児童会の人って誰のこと

- ・子どもたちは、児童会本部役員を指して、児童会の人ということがあります。
- ・児童会のメンバーは、1・2年生も含めて児童総会に集まった一人一人であることを確認しました。

○児童総会は1年に2回しかできない大切な機会であること

- ・代表委員会や各委員会活動がありますが、3年生以上の全員が参加して話し合える貴重な機会であることを確認しました。

○決めたことは参加した全員に責任があること

- ・できないことは決めない、決めたことには、決めるのに参加した児童会のメンバー一人一人に責任があることを確認しました。
- ・自分たちで決めたことは達成させるために努力する、約束は守る責任があることも話しました。

修学旅行の取り組みもある中で、児童会本部のメンバーは、事前の話し合いやリハーサルを重ねて、児童総会を迎えました。

児童総会への参加が初めての3年生も質問や意見をたくさん出しました。4年生はクラスで話し合ってきた修正意見や反対意見を出して総会の話し合いを盛り上げました。5・6年生は、落ち着いた態度で、出された意見について話し合いを進めました。そして、決められたのが次の内容です。



児童会スローガン	新時代 笑顔はじける 大明小
活動の柱1 活動内容	笑顔いっぱいあいさつ活動 朝の登校班あいさつ、あいさつボランティア、あいさつチャンピオン
活動の柱2 活動内容	助け合い活動 古切手集め、アルミ缶・ペットボトルキャップ集め
活動の柱3 活動内容	きまりを守る活動 ろう下を歩こう点検、時間を守ろう点検
活動の柱4 活動内容	みんななかよし活動 大明チャレンジ、なかよしタイム

この後の児童会活動が、児童会本部や6年生・5年生を中心に、楽しく、笑顔がはじけるものになるように児童会の一人一人が責任をもって取り組んでほしいと思います。

私が、本校の教職員に話をしているのは、楽しさの意味を大切にしたい集団づくりをしていこうということです。具体的には、次のような楽しさを求める子どもを育てよう、次のような楽しさを感じられる子どもを育てようと教職員に説明しました。

【主に授業において】

- わかる楽しさ
- できる楽しさ
- 知る楽しさ
- つくる楽しさ
- 歌う楽しさ
- かく楽しさ …など

【主に生活の中での活動において】

- 協力する楽しさ
- がんばる楽しさ
- やり遂げる楽しさ
- 人が喜ぶ楽しさ …など



「協力する楽しさ」「がんばる楽しさ」「やり遂げる楽しさ」などは、授業においても大切にしたい楽しさです。ここでいう楽しさとは、おもしろおかしい楽しさではなく、人から与えてもらう楽しさでもなく、自分で・自分たちでつくり出す楽しさをいいます。そういう楽しさを求める子どもになってほしい、そういうことに楽しさを感じられる子どもに育ててほしいと思っています。

児童会活動の中心となる高学年生には、自分たちが楽しむということも大切にしてほしいのですが、自分たちが企画したもので、下級生が喜んでくれる姿が楽しいという、一つレベルの高い楽しさを学び、感じてほしいと思っています。

アンパンマンの作者で有名な、やなせたかしさんは次のような言葉を残しています。

人間が一番うれしいことはなんだろう？
 長い間、ぼくは考えてきた。
 そして結局、人が一番うれしいのは、
 人をよろこばせることだということがわかった。
 実に単純なことだ。
 人は人をよろこばせることが一番うれしい。

やなせたかし

